

自ら土壌診断して施肥

埼玉・蓮田市 竹野谷彩人さん

クワイなど露地野菜で就農

【埼玉】蓮田市の竹野谷彩人さん(25)は、クワイやホウレンソウなどの露地野菜を1・1畝の畑で栽培している。

農業高校を卒業後、農業法人で2年間クワイや小松菜などの露地野菜の栽培方法を学んだ。その後、祖父の農地を引き継ぐ形で独立就農した。

栽培作目にクワイを選んだのは利益率が高いから。県の伝統野菜でもあり、県内農産物の伝統を守ることもつながると考えている。独立2年目



①竹野谷さん(左)と山崎さん、②定期的に土壌診断を実施し、健全経営をめざしている



には、中学校の同級生の山崎健さんを経営のパートナーとして迎え入れ

て、二人で健全で将来性のあるビジネスモデルの構築をめざしている。土壌学や植物生理学に基づいて、定期的に土壌診断や施肥診断を行っている竹野谷さん。「土壌分析に基づいて数値化し、足りない栄養素を補

うことで品質の高い土壌を作れる。病害虫にも強く、高品質で高収量な栽培をしたい」と話す。竹野谷さんは「経営に失敗した場合は、悪循環に陥る可能性もある。それを立て直すには時間もお金もかかるので、健全

な経営でそのリスクをなくしたい」という。コスト面や作業効率も意識しながら、年間を通じて効率良く収益を上げる仕組みを常に考えている。

「農業の魅力は、工夫次第で生産性が向上し、何年やってもマンネリ化しないこと」だと話す竹野谷さん。今後は「従業員を増やし、健全な経営を続けながら規模拡大に取り組みたい。新たに黄色いスイカ栽培にも挑戦し、地域のモデル経営になれるようがんばりたい」と意気込みを話す。